



Oasis meets Books

オアシス・ミーツ・ブックス

本のあるオアシス 本のある人生

2022年1月 vol.16

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

2022年、オアシスは26年目に向かって走り出し、Oasis meets BooksはVol.16を迎えました。

2018年4月に創刊され、介護職・看護職・入所系・居宅系・本部職員・役職問わず、様々な部署で働くオアシス職員がオススメの本を数珠つなぎで紹介。今号で112名に途切れることなく繋がっています。

同じ本でも紹介者が違えば視点や感じ方も違い、知らない本との新しい出会いもあり、読書意欲を高めてくれます。

今年は何んな本と出合えるかワクワク！ドキドキ！楽しみです(#^_^#) (教育委員会 副委員長：徳廣波江)

病院で死ぬということ / 山崎 章郎

特養オアシス寿安 生活支援課 / 介護士 向井 三千代

人はいつか必ず死ぬ。

どのような生き方をして、どのような最期を迎えるかは患者自身が決めるべき事。

「蘇生術」というものは、患者の家族にとってかけがえのない別れの時間を、永遠に失わせてしまう結果になることさえある。

人は決して孤独ではなく、自分を愛し、信頼し、共感してくれる人たちがいて、自分もまたその人々を愛し、信頼しているのだということを実感できる事が大切。

この本は、医者と科学技術を中心とした延命治療が至上課題となっていた医療現場に、「人が一人死ぬ」という事はどのような意味なのかを問いかけ、大きな波紋を投げかけた本です。

偶然立ち寄った古本屋で手に取ったこの本は、私の介護に対する考え方に大きな影響を与えてくれました。私の本棚から消えることの無い、大切な一冊です。

「続、病院で死ぬということ」も併せて読んでいただければと思います。



・次回⇒ 特養オアシス寿安 生活支援課 / 介護士 寺尾 周子

13歳から分かる! 7つの習慣 / 「7つの習慣」編集部

老健 オアシス デイケア・ロング / 介護士 高橋 亜沙子

世界中で読まれ、ベストセラーとなったスティーブン・R・コヴィーの著書『7つの習慣』の入門書です。

人は誰でも「正直でいたい」「成功をおさめたい」「人の役に立ちたい」などの望みを持って生きていると思います。ですが、異なった環境で生まれ育ち、違った経験や知識を積み重ねた人々と接する中で、自分の思い通りにいかない事は多々あります。

苦しい状況に置かれたとき、人はつい、環境やまわりの人を変えたいと自己中心的に考えてしまいます。しかし、自分の人生を人のせいにして諦めるのではなく、自分自身の考え方を柔軟に変換していくことで、ものの見方を変えられるということをこの本から教わりました。

それぞれの習慣を理解しやすいように、パン屋の青年を主人公にした物語が差し込まれていて、青年が課題をひとつひとつクリアしていく喜びに共感しながら読み進めることができます。

どうせ悩むなら前向きに!! そう思わせてくれる本です。



・次回⇒ 老健 オアシス デイケア・ロング / 看護師 寺田 寛子

マンガでわかる! 認知症の人が見ている世界 / 川畑 智

グループホーム オアシスキズリ / 介護士 佐山 正憲

現在、少子高齢化とともに日本の認知症患者数は右肩上がりに増加しています。2025年には700万人にも達し、65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症になると言われています。

認知症の方の不安を取り除き、質の高いケアを目指すには、認知症でない私たちがどのように寄り添っていけば良いのか、日々理想と現実の狭間で思い悩んでいました。そんな時に出会ったのが今回ご紹介する本です。

認知症の方の心の中はどうなっているのか、認知症の方はどんな世界を見ているのか。著者が経験した良好なケアができたケースについて、マンガ形式で解りやすく紹介しています。

認知症の方の、一見理解しがたい言動にも理由や意味があります。認知症の方が見ている世界がわかれば、介護者の心理的な負担が軽減し、優しくなれるのです。

最後に著者の一言

私は、安心できる人が寄り添う「人業(ひとぐすり)」こそが、認知症には最も効果と信じているのです。

是非、ご一読を。



・次回⇒ グループホーム オアシスキズリ / 介護士 牧野 義則

三国志 / 北方 謙三

管理本部 人材開発部 / 課長 北田 晋也

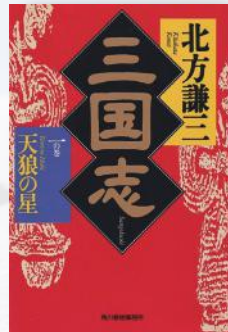
以前にもオアシス・ミーツ・ブックスで三国志が紹介されていましたが、今回も三国志を紹介したいと思います。ただ、前回は吉川英治先生が描かれた三国志。今回は北方謙三先生が描かれた三国志です。

吉川英治先生が三国志を執筆されていたのは1939年(昭和14年)、連載中に太平洋戦争が勃発していた時代です。一方、今回紹介する三国志は1996年(平成8年)から連載された「平成の時代に描かれた三国志」。この約60年の間に日本人の暮らしや価値観は大きく変化しました。

登場する人物や時代背景は同じですが、現代の多様化した価値観を反映し、登場人物に様々な個性を持たせ、新たな「キャラクター」として三国志の世界をさらに彩ります。

主要な人物以外にも馬を育てる名人、若い武将を育てる際の葛藤などのサブストーリーも読みごたえがあり、結末を知っていてもワクワクしながら一気に読んでしまいました。

「昭和の三国志」、「平成の三国志」を読み比べてみてはいかがでしょうか。



・次回⇒ 特養オアシス寿安 / 事務長 近藤 篤

青い鳥 / 重松清

デイケア オアシス寿安 / 介護士 野原 由美

重松清さんの著書には、思春期独特の感受性や葛藤が読みやすい文章で描かれているものが多くあります。



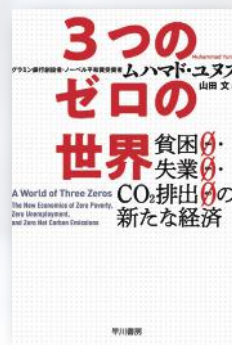
今回お勧めする「青い鳥」は短編集です。問題を抱える生徒のもとに、学校からの依頼で現れる中学の国語教師「村内先生」。生徒の抱える問題は「場面緘黙症」や「いじめ」「交通事故の加害者家族」等それぞれ身につまされるテーマとなっています。そして、村内先生には吃音障害があります。非常勤講師としてやってきた日に「・・・ででで、でも、一生懸命しゃべります。ほんとうに、たたたつ、たつ、たいせつなことだけしゃべりますから、終業式までよろしく願います。」とあいさつします。村内先生の「たいせつなこと」は少しずつ生徒に伝わり、問題は良い方向へと向かい・・・心がじんわりします。しかし、私は感動すると同時に、各話に登場する村内先生の周りにいらっしゃる先生達の姿に、自分自身の姿を見ているように感じる瞬間がありました。どの先生かは秘密です。小中高生から大人まで、幅広く楽しんでいただければ幸いです。

・次回⇒ デイケア オアシス寿安 / 介護士 溝上 正男

3つのゼロの世界 / ムハマド・ユヌス

グループホーム オアシス平野 / 介護士 松永 恵子

こちらの本は、私が肉離れにより一時的に介護生命を断たれ、精神的にどん底の渦中で手にした本です。



著書は経済学者であり「ノーベル平和賞」受賞、東京オリンピック開会式では「オリンピック月桂冠賞」を授与されました。また、1974年のバンラデシ大飢饉を機縁に、無担保少額融資を行うグラミン銀行を立ち上げ、銀行界が見向きもなかった貧しい女性たちに無数の起業と就労の機会を創出しました。本書には、利益を増やすことを目指す資本主義は、どうしても環境破壊を行い格差を拡大してしまうので、各自が自身を活かせるソーシャルビジネス（私益ではなく公益を第一義に営利活動を行う無配当の会社）の起業こそが人類の幸せに繋がる、と書かれています。自然を歪めてでも利便性や富を追求する近代社会のシステムや価値観の変革が必要であり、貧困と失業と環境破壊をなくすことを目標にビジネスを設計すれば問題が劇的に軽減できる、という考えのもと、世界中のお金の流れを変えて、私利私欲なき「明日の世界をデザインしなす」新秩序の創造を、実際に試みているのです。人類は現下のパンデミックの中で、大きな別れ道にさしかかっています。“理性を公的に使用する術を得たならば、私たちは正しい道を進めることになる”と、判断の時代を乗り切るヒントがここに記されています。

・次回⇒ グループホーム オアシス平野 / 介護士 篠原 真美

アンネの日記 / アンネ・フランク

老健 オアシス / 配食事務 松川 信子

私がご紹介する本は、遠い昔に読んだものですが心に残っている本です。文章を書くことが大好きなアンネ・フランクという女の子が、13歳の誕生日に親からプレゼントされた日記を「キティ」と名付け、ユダヤ人というだけで迫害を受け、隠れ家生活を強いられる中、何者かの密告により強制収容所に送られるまでの2年間の、様々な日々の出来事や心の内を手紙形式で書き綴った日記です。



現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため「やりたいことができない」「会いたい人に会えない」「行きたい場所に行けない」という中で「いつかできるから頑張ろう」「楽しいことを考えよう」という希望が湧くような本だと思います。<アンネの日記より> だれもが心に良い知らせのかけらをもっています。それは、自分がどんなに素晴らしい存在になるのか、まだ気づいていないということ！ どれほど深く愛せるのか！ 何を成し遂げるのか！ 自分の可能性とは何かを！

・次回⇒ 老健 オアシス 厨房 / 調理師 喜多清

オアシス文庫 recommend



「ユマニチュードケア」という言葉をご存知でしょうか？

ユマニチュードとはフランス語で「人間らしさ」という意味を持ちます。「見る」「話す」「触れる」の三つのケア方法に「立つ」というケアを加えるのがユマニチュードケアの特徴です。優しさを伝える技術とも言われています。難しい言葉のように感じるかもしれませんが、目新しいことは特に語られていません。

例えば、「見る」では目線を合わせて意識することが重要です。目線を合わせて話すことにより、相手の存在を認め、大切に想っていることを伝えることができるかと語られています。

“人との関わり”を大切にしながら、ご本人の自立を促すユマニチュードの技術は、相手の心を開く効果だけではなく、ケアをする側の心が落ち着く瞬間を与えてくれるのではないかと思います。

ユマニチュードケアは、認知症の方の為の技術ですが、人間関係を円滑にする技術なのではないかと思える一冊です。（教育委員会：浅見 凧咲）

老健入り口の書棚「オアシス文庫」から貸し出できます▶



ユマニチュード入門

／ 本田美和子
ロゼット・マレスコッティ
イヴ・ジネスト

編集後記

今号は、図らずも、「生きること」——志をもって生きること、希望をもって生きること、ひとの“生きる”を大事にすること、誰かの、世界のほんの少しでも役に立つ生き方を考えること、そんなことが書かれた書籍のご紹介をいただきました。どの本も、紹介文を読んだだけで、ちょっと背筋が伸びるような気がします。

皆さんの「好きな本」はなんですか？と聞かれて、最初に思い浮かぶのはなんでしょう？これだけは捨てられないマンガ？ 何度も見てしまう写真集？ 何年も購読している雑誌？ 色んなことを学んだ専門書？ ここでは、本の紹介だけではなく、7名の方のいつもと違う一面を見せていただいているようでとても楽しいです。いつかバトンがわたった際には、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

oasis
おかげさまで25th Anniversary

教育委員会

(教育委員会：中島美和子)